東京大学教養学部学生自治会 学部交渉局長

松野 大河 殿

東京大学教養学部長 太田 邦史

「駒場図書館の増築計画に関する要望書」について(回答)

駒場図書館2期棟については、「拡大教授会および教授会議事要旨」(2019年9月19日) にあるように、図書委員会新駒場図書館検討 WG が拡大教授会においてその検討状況を報告している。

2期棟の建設は、現在の駒場図書館竣工(2002年)以来の懸案であって、これまで施設整備費補助金事業概算要求も重ねられてきた。今回の検討では、既存の計画を基礎としつつ、研究科としてあらためて配慮するべき事項を洗いだした。要配慮事項として、具体的には、一定の自己財源の確保、後年度負担となる高額な維持管理費の発生の回避、工事期間中の現図書館の長期閉館の回避などを挙げることができる。

計画は、これからの大学図書館にふさわしい「教育・学習・研究」支援の機能を一段と強化し、駒場における学知のハブを作りだすことを目指すものである。十分な閲覧席の確保、グループワーク・スペースの開設、小規模プレゼンテーション・スペースの設置、小規模展示スペースの設置、図書館への蔵書統合(学術情報基盤整備)を通じた学際的な研究・教育の推進、そして蔵書統合によって生み出されるスペースの有効活用などを構想している。

これまでも、教養学部は、構内の施設・設備について学部交渉などを通じて自治会との協議の場を維持してきた。今後も、学生の多様な要望を集約して学部と共有しようとする自治会の意向を尊重したい。

以上